

CBC NEWS

息吹き

海外宣教特集

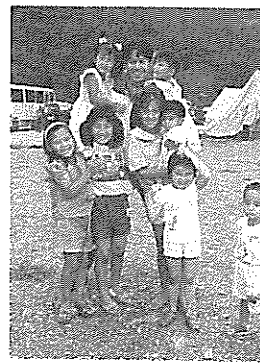
次はトイレ。訪問した先で何よりも不安なのはトイレでした。有るか無いのか使えるのか使えないのか。後はお察しください。人。究めて素敵な人たちが魅力的で美男美女。南の南国の雰囲気を感じます。子どもは泥だらけで生

先日読み終えた本の裏表紙に、「科学の道を少し進むと神から離れるが、更に究めればこれに回帰する。パストール」と記されている。実はこのひと言が、二一八頁を一気に読み通すきっかけとなった。科学と宗教が両極化された時代が去りつつある気がする。著名な科学者達が、科学は

夏期派遣で台湾へ、白石先生、瀬古兄、東兄、顔兄が遣わされました。その証は「海外宣教ニュース」に掲載されました。ここではその証しの中に出てこなかったものをいくつか紹介したいと思います。まず、食事について。食事は非常においしく、どこを訪ねてもテーブルの上にあふれるほどの美味しさを頂きました。しかし、食べにくいものもありました。豚の肉を一月塩と粟で漬けたもの。魚を一月塩に漬けたもの。そしてどちらもうな匂いで、味は酸っぱい

夏期台湾派遣

東 裕雅

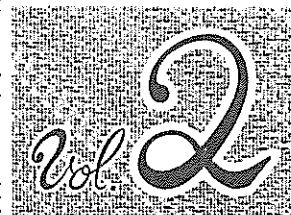


宣教のおろかさ

静心

きよいのいいのが深山。夜十一時まで遊んでいます。教会。色々。踊りが好き。賛美が好き。祈りも熱心。異言あり、癒しあり、何でもありのペンテコステ。日本に帰って来て、何度か証しをしました。その度に感じるのは「本当のことではない」ということでした。日本にも多くの宣教師が働いて下さっています。そして、我が教団でも五人の先生を送り出しています。宣教師の先生方はいつも笑顔です。苦しいことはないのです。宣教師は多くの犠牲を払ってまで宣教師になります。なぜなのでしょう。

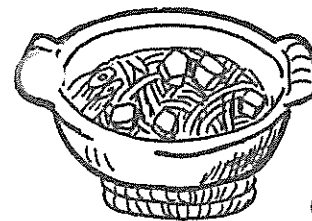
形而上学と握手する必要があると言いつつ、多分一部の閉鎖的な日本人には聞きずるなことが多く、ユージェン・サイエンス追従者の餌食にならないように、願うだけだ。いぬ「驚き」が歴史・経済・政治・宗教の土俵に起こっている。「パラダイム・シフト」という横文字が学者間で流行ったのもそれを象徴している。いや、二〇〇〇年以前に、「パラダイム・シフト」があったばかりに、主イエスは十字架に掛けられた。大々的な神への回帰（リバイバル）が到来しつつある。中央聖書学校の学生はそういう潮流のなかで放り込まれるのである。（K・K）



CBCの

OUR MEAL!

◆おいしい食事は、私たちの一番の楽しみ。今回も大好評のメニューをご紹介します。寒い冬に “ほうとう” 甲州名物



- ① かぼちゃ、人参、しいたけを煮てお湯を加える
- ② 生のほうとうを入れて、みそを入れて煮込む
- ③ さいごにねぎを入れる。

わたしの本棚

◆神学生によく読まれている本をご紹介します。今回は、「謙遜」 アンドリュー・マラー著 いのちのことば社著者は、より高い高潔を求めていると主張している人々が、そう言いながらも、謙遜の増加がそれに伴っていないことが多々あることを指摘し謙遜こそ、熱心なクリスチャンが、キリスト者として認められる主要な徴であることをこの書によって証言している。

編集後記

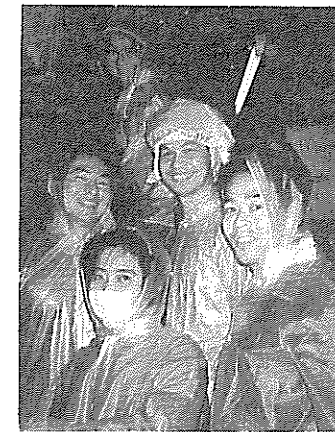
段々と寒さがまじって来ました。この時期は神学校の一年のサイクルの中でも、最も忙しい時期ですが、なんとか今年中に第2号の「息吹き」を発行することができました。今回は「海外伝道」の特集を組みました。CBCに、海外にも広く用いられるような器がますます起こされることが私たちの願いです。先日は献身者準備会が行なわれ、異例の15人（例年の5倍）の出席者があり、大収獲の近い事を思われました。この詳しい記事は次号に載せたいと思います。（Y・M）

編集責任者 北野耕一
発行 1993年 12月
事務局 東京都豊島区駒込 3-15-20 中央聖書学校
TEL (03) 3918-4925 (03) 3918-4064

ばんくす

③ 捨身の作業

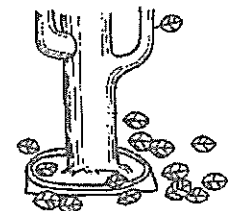
◆私たちの寮生活は自分たちで何でもするのが原則です。この日はなんとあるトイレの管が破裂！でもみんな嫌な顔ひとつせず？カップを着て上から落ちてくる様々なものをよけながら、また、浴びながら、必死の修理作業を行いました。



作業の合間にはポーズ！この時の香りをお伝えできないのが残念です...

お祈り下さい！

- 学生の学びと健康のために
- 教師の働きと祝福のために
- 献身者がさらに起こされるように
- 神学校のリバイバル
- CBCニュースの働きのために



読者の声を募集しています感想や意見、または神学校や献身に関する素朴な疑問や質問、などなど、何でも編集部にお寄せ下さい！！

東アジアの世界宣教状況

去る九月香港でAGAM世界宣教実務者会議が開催され、東アジアで宣教の前進への期待が更にふくらみました。

今年はCBCでも初めての海外実習派遣が実現し活字を通してではない生の体験によって語られる、海外での証しを耳にすることができました。それによって学生たちが主のご命令である「宣教」に対して視野を拡大する良い機会となりました。「宣教」という主のご命令をどう受けとめるかは将来この学校から伝道者として巣立つ学生たちにとって重大な問題なのです。

同じ東アジアでも国によって宣教師を派遣する仕方が様々です。

アッセンブリー教団だけを例にとれば、日本のように教団の枠組みの中で派遣する国もあれば、シンガポールAGやマレーシアAGのように個々の教会が自由に派遣している国もあります。また韓国AGのように四つの教団に分かれていて、そ

れぞれが送り出しているケースもあるのです。宣教師の訓練も多様で日本は正規の神学教育を受けさせ派遣しますが、普通の信徒が派遣されている国もあります。遣わされる期間も、私たち日本人は、宣教師は一度遣わされたら何年もの地で働くか、もしくはその国で骨を埋めるかのようなイメージを抱きがちですが、東南アジアの国々では六カ月や三カ月という短期の派遣も当たり前になっていきます。このような事情から、教団が宣教師の数を全く把握していない国もあり、宣教師の定義もお国柄によって幅があるため、正確なデータを知ることは困難なのが実情です。しかし燃えるような世界宣教への情熱はどの国も変わることはありません。

ミクロネシアAGでは全献金の二十％を国外の宣教に使用していますしシンガポールAGは十教会が七十カ国に二百人の宣教師を派遣し毎年四百二十万ドルを国外宣教に

捧げています。マレーシアAGでは二千年には十万人の信徒で五百人の宣教師を派遣するビジョンを掲げています。また、派遣するだけでなく、派遣して欲しいとの強い要請があります。日本AGにも東アジアの国々から宣教師を派遣して欲しいとの要請が数多く来ていますが、働き人が少ないためそれに答えることが出来ないでいます。

神はアブラハムに「あなたの見渡す地」を与えようと約束されました。私たちは今までうつむき過ぎていたのかも知れません。

このCBCが世界宣教へと開かれ、働き人を更に多く産み出すところとなるように神に祈るものです。(M・N)

「目をあげて、あなたのいるところから北、南、東、西を見渡しなさい。」

IBUKI レポート



特別講義

オング師を迎えて
十一月十六日〜十八日
三日間にわたり小樽で開
拓伝道中のジーン・オン
グ師による特別講義が行
なわれました。先生は三
年間に三十人以上の魂を
洗礼に導き、その経験を
通して神様から受けたチ
ヤレンジや恵みについて
語って下さいました。

日本で、女性が講壇に
立つのを拒否されとても
苦しくシンガポールに帰
りたかったことや、語学
教室によつて人々を導い
たことなどを話られまし
た。また、後半は開拓伝
道について具体的なブラ
ンを講義して下さいまし
た。開拓伝道には、確信
と合理的な計画、そして
何よりも祈りが必要であ
ることをこの三日間の講
義によつて学ぶことがで
きました。(Y・M)

シリ〜ズ献身 Vol.2 「畑は世界」

伊藤顯榮

「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民に証しされ、それから、終わりの日が来ます。」（マタイ 24：14）

イエス・キリストの福音宣教の命令は常に、「全世界に出て行き、すべての造られた者に」であり（マルコ 16：15）、**「あらゆる国の人々」**（マタイ 38：19、ルカ 24：47）、**「地の果てにまで」**（使徒 1：8）を対象としている。

冒頭の「全世界」は直訳すると「すべての人の住む地」を指しており、「全ての国民」は「人々、すなわちピープル・グループ」と考えられている。終末の前に、全世界のあらゆる人々に福音を伝えなければならないのである。

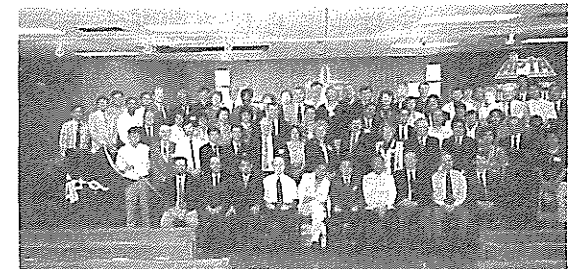
キリストの命令には国内と国外の区別がなかった。「エルサレム、ユダヤとサマリヤ全土、及び地の果て」（使徒1：8）という表現ではエルサレムも地の果ても同一線上にあり、「地の果て」は「それから」ではない。従って使徒たちはパレスチナ宣教をし、また、海外宣教をしたのである。パウロもバルナバも同様であった。神学的には世界宣教が一つあるだけである。

具体的には、語学の研修など、国内伝道にない問題の解決が必要であるが、教団内でも、国内の開拓と同様に海外派遣が検討されつつある。問題は伝道者、神学生が全世界を視野に入れているかどうかである。マケドニア人の叫びに応答しなくてはならない。

アジア太平洋神学協議会 (APTA) 報告

9月20日から6日間香港のエクレシ
マ・バイブル・カレッジにおいて、第2
回アジア太平洋神学協議会総会と学校認
定業務研修が行なわれた。会合にはアジ
ア諸国太平洋諸島、オーストラリア、ニ
ュージーランド、それにヨーロッパ・米
国からの代表者約130名が参加、3年
がかりで作成した「認定基準」が批准さ
れた。総会中、認定を受けるための「自
己診断」の理念と、その実習が行なわれ
た。また、訪問員の役割説明と実習があ
り、参加した者は、訪問員の資格を獲得
した。

現在アジア太平洋地区には、アッセンブリー教団に属する神学大学院、聖書学校が160校あり、相互交流・学術研鑽



・神学教育内容の向上、相互扶助などの必要から、この協議会が誕生したのである。

CBCからは代表として佐布校長、山城教務、北野、ハイムス両師が出席した。なお伊藤教団理事長は協議会の初代理事長として活躍、また、佐布師・北野は認定委員を務めている。(K・K)